

じっくり心をこめて

スロー フード 51

《今月のご紹介》

伊東ヤイ子さん
(下 関)



豆腐とニラの炒め物

今が旬のニラは、疲労回復のビタミンB1が豊富。味噌汁、炒め物、和え物、おひたしなど、毎日食べたい食品です。特に卵、豚肉との愛称が抜群です。

材 料 (4人分)

| | | | |
|-------|------|---------|------|
| ・豆腐 | 1丁 | ・酒 | 大さじ2 |
| ・ニラ | 1束 | ・しょうゆ | 大さじ2 |
| ・しいたけ | 4個 | ・塩・こしょう | 少々 |
| ・ごま油 | 大さじ1 | | |

作り方

- 1 ニラは3～4センチの長さに切る。
- 2 豆腐は水切りをして、小さく手でちぎる。しいたけは石づきを取り、薄切りにする。
- 3 鍋にごま油を熱して、強火で2の豆腐を炒め、表面に焼き色がついたら、しいたけを加えて炒め合わせる。
- 4 酒、しょうゆを鍋肌にそっと回し入れ、そこにニラを入れて炒め合わせる。
- 5 ニラの色が変わったら、塩・こしょうで調味する。トウバンジャンや唐辛子で辛味をきかせても良いですよ。

せきかわ文芸

短 歌

友の住む山の彼方よ懐かしくこの嬉しさ
よ何時の世迄も

高橋 イツ
(愛広苑)

窓辺に立ち山並仰ぐ老の幸けやき櫻木見
上げて嬉し

高橋 イツ
(愛広苑)

かたばみ短歌会作品

白椿は春のブローチ着けるよに庭に占めたる
位置にて開く

小池 啓子

歌詠みて文芸欄に載りいしに逝くとは寂し郷
土の人は

須貝 恵美

春の陽が続けば自ずと鎌を持つ吾が生涯の糧
となりたし

山口 藤枝

新しき力わきくる心地して曆をめくる卯月の
あした

渡辺千恵子





小学校長や関川村教育委員を務めた小池俊造は大正五年九月八日関川村下関小池保太郎の長男として出生。昭和十一年三月新潟師範学校本科一

近・現代 関川郷の人びと

執筆：佐藤貞治（「せきかわ歴史とみちの館」館長）

小池俊造

部を卒業。同年三月三十一日佐渡郡沢根町沢根尋常高等小学校訓導に採用されたが四月一日付けで短期現役兵として歩兵第十六連隊に入隊を命ぜられたため、着任は同年九月となった。以後佐渡郡岩首村立岩首尋常高等小学、新潟市立鏡淵国民学校、関屋国民学校、宮浦国民学校に勤務。またこの間、昭和十九年三月新潟第一師範学校研究科を卒業。昭和二十年九月三十日、関谷村立関国民学校訓導として赴任。

戦後の混乱の中、教育水準の維持、教育内容の充実に意欲的に尽力した。昭和三十年四月関川村立安角小学校に転勤。文部省主催の東日本ワークシヨップに県代表として発表した。情操教育の論文が入賞し、岩船郡村上市の研究会で発表するなど児童の情操向上に寄与した。

昭和三十七年四月新潟市立松浜中学校教頭を命ぜられ五年間にわたり校長を補佐し学校教育の充実発展に寄与した。昭和四十二年四月関川村立川北小学校長に採用され、二年間地域と密着した教育の振興に貢献した。赴任した年の八月に羽越水害に襲われ、全力で児童の救済にあたった。また新しい校歌の制定に尽力し、現在も児童に歌い継がれ

ている。さらに校舎内外の環境整備に努め、新潟県花いっぱいコンクール奨励賞を受賞した。昭和四十四年四月荒川町立金屋小学校長を命ぜられた。理科教育研究会を全県下を対象に開催。また在任中岩船郡村上市研究協議会の理科研究会も二回開催し、理科教育の振興に貢献した。そして四十八年ソニー科学教育振興優良校に選ばれ受賞。

昭和五十年三月退職。同年十月から三期十二年間、関川村教育委員会委員として、学校の管理体制の確立、教育環境の整備、教育実践の向上にと自己の体験を生かして尽力した。

なお、美術の非常勤講師として昭和五十一年から二十年間、県立中条高校や中条工業高校に勤務し美術教育の振興に寄与した。光陽会会員として活躍し、二科展や県展などに入賞し、作品は地域の公共施設に展示。環境の美化を図り、情操の醇化に努力した。平成十六年十月一日教育功勞により瑞宝双光賞を受章。平成十八年八月十一日八十九歳で没した。

・小池家の系図

先祖 三代 三男
与惣工門…保太郎 俊造 晃

せきかわ文芸

関川俳句の会作品

雨やんで新緑の山牙え渡る 渡辺しづい

うぐいすの声清やかや庭を掃く 渋谷くに

水鏡している池に初つばめ 五十嵐貞子

山裾の雑木にまじり楚々と余花 佐藤ノブ

粽の香流れ厨は子供の日 南セツ

新緑の木々に埋もれし山の寺 米野セツ

柿若葉近所に三人一年生 青木慶一

せきかわ川柳会作品「通う」「咲く」「雑詠」

宴半ば酒好同志の輪が出来る 佐藤ノブ

友に会い話が咲いて刻忘れ 渡辺しづい

花咲いて道くさふえた通学路 南セツ

休耕田蝶が舞つてる菜の花に 本間イミ

花の宴値上げどうあれ酒つまし 平田千恵

何時までも咲いてほしいなこの桜 高橋イツ